

# そうだ！ 田舎にくらそう

2016.

元・川西町地域おこし協力隊の6年後のお話。  
企画・構成・文・撮影etc...全部 : 漆貴旭  
イラストモデル : チャッピー(元・小方家)



## 「2016年。帰省したら、自分のルーツに気づいてしまった件」

あけましておめでとうございます。早いもので、置賜暮らしも6年目に突入です。年に一度、実家のある埼玉県川口市に帰省し、親戚に会います。今回も12月31日から1月3日までの短い間でしたが、都内をウロウロしてました。獅子舞って、東京にもあったんだ…と、感心。

その親戚ですが、父方のほうは4姉妹と2人姉妹という女だらけなのです。年齢は33歳から順に2歳ずつ下がっていくので、年齢的にも子供がいたり結婚していたりです。

で、4姉妹の家に行ったのですが、まーうるさい。失礼、にぎやか。10年ぶりくらいに会ったのに、何であんなにしゃべるんでしょうか。旦那という男が2名いて、もはや誰の旦那だかわかりません。米沢の静まりかえったアパートから直行したので、新入生歓迎コンパにでも紛れたかと思いました。

が、しかし、4姉妹ともなると全員が家事をするので、食事は早いわ、酒は早いわ、洗濯もするわで、居酒屋より充実してます(笑)男兄弟ではシェフでもしてない限りは無理ですな。

とりあえず、父方の親戚はこれでいいとして、次は母方の親戚。こちらは毎年恒例です。特に子供の頃からおばあさんと暮らしていたので、わたくしめは、おばあさんが元気ならそれでいいのです(笑)

毎年、おばあさんの家に行くと何かしら頼まれます。去年は洗濯機の修理、今年は電話に住所登録作業でした。楽勝。というか、洗濯機とかテレビとかビデオとか毎回直せる自分もなかなかスゴイと思います。

わたしのおばあさんはDIYが得意で、子供の頃から一緒に何か作ってみたいりしたわけです。釘の打ち方やヤスリの使い方とか教わったりして(笑)見たことないけど、おじいさんも鋳物の金型職人、その親も時計職人、僕の親は経師屋(装飾や内装業。何といたたらいいのか…)、ひいじいさんも浅草で馬具職人だったらいい。もうDNAとしか言いようがない。ちなみに、いとこはバイク屋で、その親は建築事務所、もう血筋だな。

あと、親戚の中で喫煙の話になって、職人というと絵に書いたように喫煙者が多らしく、自分の父親もドクターストップが発令される数年前までプカプカと吸ってました。親戚いわく、僕が子供の頃は、近寄ってくるとタバコ臭かったようです(笑)母親なんて「この子なんて、服がタバコくさかったもんね。副流煙すいまくりだよ！やーねー」なんて言ってますが。。。

そんな職人の家だからこそ発明した品があります。僕が小学生の頃、夏休みの自由研究の作品。その名も「タバコの煙。吸い取り機」。マブチモーターに逆向きプロペラをつけ、ONとOFFのスイッチ付きの電池で動くハンディタイプの換気扇です(笑)家で実験したら、もくもくの煙があつというまに窓の外へ！これはいいということで、父親は製品らしく装飾してくれました。家に来ていた職人仲間の人からも好評で、自信满满で学校へ持っていったところ。。小学生らしからぬ研究！けしからん！ということで、家がタバコでけむいという点だけしか伝わりませんでした。。がーん！

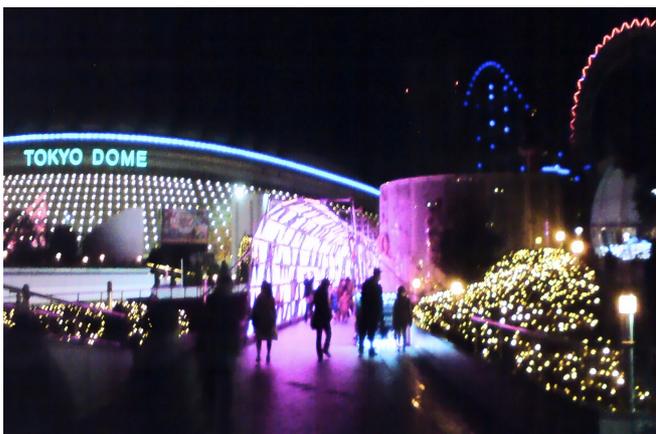
車を運転しながらラジオを聴いていた。たしか、モモクロが出ている番組。「仕事を人に頼む時、どうしたらいいか？」というテーマだった。頼み方によっては「自分も忙しいから」と断られるから注意だそう。低姿勢で頼むか、代わりに何かするからと言うか、色々とビジネス処世術があるらしい。この番組を一通り聴いてわかったのは、話し合いで相手を納得させたもの勝ちということ。そして、そこまでして人に頼まなきゃいけないんだと、ヘンに納得した。ふーん、職場というのは、どこもピリピリしてるから、トラブルなんかすぐ起きるもんだよな。と、思いつつ、何で会社というのは、そんなにピリピリ、セカセカ、アタフタしてなきゃならんのか不思議でもある。どうして「仕事」という2文字は、世界のどこへ行っても何かしら背負わされるんだろう？

自分がどれだけのことをこなせるか？というのは、僕の場合、小学生の時のお受験戦争からはじまり、大学受験の勉強に終わった、テスト対策によく似ている。前も話したかもしれないが、中学一年の最初の間試験で赤点をゲットした僕は、早速、個別三者面談となり、先生と親の話し合いがはじまった。「なぜ、授業もちゃんと聞いていて、態度もいいのに点が取れないのか??？」なーんて言っていたが、答えは簡単、話は聞いていたけど忘れてしまったのだ(笑)お茶のみの感覚で話を聞いていただけ。だから、何気におもしろかったのは60過ぎの教頭先生が担当していた道徳の授業。おじさんの話はなかなかおもしろい。人の生き方を諭してくるからいいんですね。

で、テスト勉強の話。コツコツと勉強する事は、性格上、難しいので1ヶ月間の集中プランを立てた。なぜ1ヶ月か？それは、あらかじめ絶対こなせないプランを立てて、自分をテスト前ラスト2週間に集中させるためだ。まず、この1ヶ月間以外は授業なんてまったく聞いていない。だから、今、教科書のどこをやっているのかも知らない。テスト1ヶ月前、テスト範囲を確認し、教科書の独学に突入。当然、わからないことはたくさんある。そして、さらなる悲報は数学なんかは、前回のことも覚えてないと先に進めない！だから、さらに復習する。こうして色々な科目を勉強しまくる。基本的に夜7時くらいまで学校にいて、先生に質問したりする。その後、予備校の自習室に行く。チューターという大学生に質問して教えてもらう。帰りの電車でも二宮金次郎のように、立ちながら英単語を覚えたりしている(実は周りにも同じような学生が多いので、東京の電車では見慣れた光景!?)。寝てしまうと記憶が整理されて、忘れてしまうものもあるので、歴史や英語などは徹夜してテストに行く。だが、その日は徹夜して大丈夫のように前日から昼夜逆転生活を送る。そのため授業中は怒られようが、何しようが寝ている。だって、これが僕なりのテストを乗り切る唯一の方法なんです(悲)こんなみじめな学生だったけどテストもやれば出来て、やらなきゃ出来ないという事がわかって、大学受験に関しては、知らない問題が出てきても対処できるだけの準備をこなしていれば出来るけど、僕のような一夜漬けの人間は、知ってる問題しか出来ないということがわかった。

こんな学生時代の話でも、やったからこそわかることもあり、今でも役立っている事はたくさんある。これは大学生の頃や、バイトしていた頃、就活していた頃の話だが。よく極論を言う人がいる。「死ぬ気になれば何でも出来る」「働かないと生きられない」というジャンルの台詞。思わず、そりゃそうだと思ってしまうかもしれないが、そんなことは誰でも知っているから、何か納得できず、しこりが残る。学生時代に予習・復習きっちり順風満帆に正しい生活をしてきた人は、社会に出てからあちらこちらから降ってくる急なトラブル、つまり、モモクロのラジオに投稿されるような会社あるあるにドギマギしてしまい、善人っぽい感じの人が言いそうな「辛いのはみんないっしょ」「あなただけじゃない」「頑張ればきっと出来る」という囁きに心動くかもしれない。そして、社会とは、会社とは、世間とは、人生とは、と、先輩たちが築き上げてきた正しいスローガンの継承者になるかもしれない。しかし、僕のように分厚い歴史の教科書の端で200ページ以上のパラパラ漫画を完成させたり、音楽の五線譜ノートの全ページに線を1本付け足してギター用のTAB譜に仕上げたような人間は、そもそも、そんなラインから外れてしまっている。致命的なのは集団にいながら、独自の方法で自分をコントロールしている事だと思う。

過去の経験上、僕は関連性のない事をひたすら覚えるというのが超苦手で、もうこれは仕方ない。小学生の時から、九九を覚えましようと言われても2×9と9×2を両方覚えなきゃならんというのが意味不明。掛け算は順番問わずと知っているから9×2なんて興味なし。月を英語で？カレンダー見れば数字が書いてあるから興味なし？古典？現代通用しない語は興味なし。というように、色々言い訳してやらないわけです。覚える事は出来るけど、意味がないと思いついたことは忘れてしまうのです。でも、仕事というのは九九を全部覚えるのが仕事だったりするから、僕自身のことは関係なく、こなさなくてははいけません。けど、興味がない事は効率が落ちたりするから、人に頼んだり、時間内に終わらなかつたり、色々トラブルも出てくるんでしょう。でもこれが会社であり、社会であり、世間であり、人付き合いだと思います。



正月にそんな学生時代を過ごした街を散歩した。久しぶりの東京ドームは広さを聞かれても何個分だかさっぱり。ダリア園2個分のほうがわかりやすい。実はこのイルミネーションは5年位前も見ただけがする。写真を撮って、おばあさんにあげた気が…。おばあさんにもなると若者が集まるイルミネーションなんて見に行くこともないだろうし、東京タワーとか首都高とか銀座とか、地下鉄に乗れば30分くらいで行けるところも行かなくなる。そもそも、人によっては興味がない人もいると思うが、山形でフラフラしている身としては、東京の街並みでも見ていただこうということで、写真の勉強をかねて、この辺はよく来ていた。

その日は、そんな、おばあさんが一年で唯一？楽しみにしているんだか、生存確認だかわからないが、親戚と集まる日だった。と言っても自分の息子と娘だが。ちなみに、その娘が自分の母親でずな。

本当はもっと色んなところに行きたかった。日比谷公園とか東京タワーとか、何年も前にカメラのファインダー越しに見ていた景色を、5年間の山形生活を経由して、どう写るか見てみたかったなあ。宴会の時間だったから帰ったけれど。

最近、何気なく観た「きいろいゾウ」という映画。都会から田舎に引っ越してきた夫婦の話だった。やっぱ移住って流行ってるのかな？と思いついて公開日を確認したら2013年。自分が協力隊の頃だ。都会と田舎のキョリ感みたいな部分を感じられて、監督を調べたら郡山出身の人だった。ん～都会と田舎の両方知っていれば、こういう映画も作れるんだなと思いついて、次に「さよなら歌舞伎町」という映画を何気なく観た(R指定なので子供はダメ!)。そうしたら東京のイメージというかアンダーグラウンドな世界観満載で、ひたすらダークな映画だった。でも、東京という、悪のイメージがあるというのは納得できません。良い街、悪い街という評価じゃないですね。何というか、この映画みたく、一部の悪いイメージを徹底して描きたくなるような。そんな衝動はあるかも。そんなもって、意外なのはこの2つの映画の監督は同じ人だった(笑)偶然過ぎる自分のチョイスからして、やっぱり、今まで独学で暮らしてきただけあるな。自分は、映画観て勉強しよう！

思ったことは書いておく  
コーナー  SINCE 2016.1~